

会 議 の 名 称	第4回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	平成31年3月27日(水) 午前9時30分から10時45分まで
開 催 場 所	あま市役所甚目寺庁舎 2階 第1会議室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 (1) 放課後子ども教室の実施内容について 3 その他
資 料	次第 七宝地区放課後子ども教室プログラム(案) 伊福、秋竹小学校見取り図及び写真(参考1) レクリエーション・インストラクター案内(参考2)
公開・非公開の別	公開
傍聴人の人数	0人
出席委員	木全(克)委員、木全(孝)委員、井村委員、林委員、辻委員、川原委員、村上委員、宮崎委員、大西委員、立松委員、鎌倉委員
欠席委員	増田委員、溝口委員
事務局	松永福祉部長、樋口子育て支援課長、平野主幹、井上係長、川村主任

井村委員長	開会 あいさつ
福祉部長	あいさつ
事務局	資料確認
井村委員長	協議事項 (1) 放課後子ども教室の実施内容について
事務局	七宝地区放課後子ども教室プログラム(案)、伊福、秋竹小学校見取り図及び写真について説明。 第3回放課後子ども教室のあり方研究会にてスタッフへの研修についてご意見があったため、一例として木全(克)副委員長よりレクリエーション・インストラクター案内から説明。
木全(克)副委員長	それでは、今の説明で本当に大枠が決まったということですが、この状態は10分の1くらいしか決まっていらないと考えています。見ていただきますとプログラムが載っていますが、この前後でスタッフあるいは核となるリーダーというのがどこに集合して、どうやって出席をとって、挨拶をして具体的に工作やフットサル、ドッジボールになりますけども、2時間の中でずっと工作するわけではなく、ずっと吹き矢するわけではなく、今日こういうプログラムをやります。お呼びした講師はこういう形でやりますということを展開して、プログラムの内容は40分から50分くらいしかできませんので、その後子どもたちが学年の枠を超えて交流をするというプログラムを考えなければなりませんので大変なことです。今、教室を使うということを説明していただきましたが、具体的になれば、どこに集合して何か起きるとどういう避難経路を出して子どもたちを誘導するのかというところまでずっと詰めていかないと駄目です。今、研修の説明させていただきましたが、美和の方で2月の終わりに予定していた講師の先生がうっかり日程を忘れて来られなかったということがありました。そうすると子どもたち何やっていいか

分からないのですが、その時のスタッフが出来るゲームやアクティビティをやって繋いだということで、やっぱり何かあると子どもたちをどのように1時間あるいは1時間半過ごさせるかという能力がないといけない。今日、添付させていただきましたが、こちらが東京にあります日本レクリエーション協会が心の元気づくりを推進するレクリエーション・インストラクターということで公認資格・指導者資格のご案内というものです。読ませていただくとレクリエーション・インストラクターは楽しい、やる気が出たと感じる人の心の仕組みが十分作動するようにゲームや歌、集団遊び、スポーツといったレクリエーション活動を用いて人々の心の元気づくりを実現する指導者です。主に福祉や教育の分野、福祉施設、学校、地域でレクリエーション活動の楽しさをとおして元気づくりを支援する公益財団法人日本レクリエーション協会の公認指導者の基礎資格になりますということで、行政講習会では楽しさと元気づくりの理論やレクリエーション支援の理論に基づき実技や演習を通して体験的に理解を深めていきますということです。1番裏を見ていただきますと、4つの四角が書いてあります。左側の上がレクリエーション・インストラクター。そして、これを学ぶとプログラムの創作とかコーディネートとかレクリエーション・コーディネーター、こちらは専門資格になります。それから福祉の分野では福祉レクリエーション・ワーカー。そして今、スポーツを交えてということでスポーツ・レクリエーションということでレクリエーション・インストラクターを取ってもう少し勉強すると、この専門資格3つの方へ上がっていくということです。

これはですね、実はこの2年、愛知県のレクリエーション協会が70周年記念を迎えるということでそちらの仕事が多かったので休んできましたけども、今回もう1枚のプリントを見ていただきますと5月19日から10月6日、全9回。開いていただきますともう大変です。1日1コマ90分×4コマ、日曜日をずっとやっていくと単位が取れます。少し前までは試験がありましたが試験はありません。見ていただきますと去年までの教科書から新しく3分の1の厚さになりました。実技を特化してということで教科書作りから関わっておりますが、やっぱり理論的なものも必要だと思いま

	<p>す。あと課程認定校ということで大学、保育の学校で課程認定校の申請をしているところは大学を卒業すると同時にこれをいただけます。それから福祉の学校、体育の学校でも課程認定校があればということで、学校で取れる方法と、こういうかたちで市町村レクリエーションがやるというかたちでのもの。来年度は愛知県が主催、スポーツ会館、名古屋城です。それから一宮、弥富、豊橋、犬山ぐらい。この単位は5年間有効ですので、どこで取っても認定されます。例えば5月19日の理論の2を都合が悪くて休んでも、豊橋で取ろう、あるいは県で取ろうというかたちだと大丈夫です。いろいろな地域資源を利用しているということで、例えばリスクマネジメントとあります。第6回でありますけど東部消防署にお願いしてAEDの講習で資格が取れるようなかたちのものを組み、そういうような形でもやっていきたいと思えます。</p> <p>今あま市では7人公認指導者がおりますので、うまく使ってやっていきたい。あと外部から補習するというかたちでもやっていきたいと思えますけれども、大変なかたちでやっていきますが、もし興味がある方は挑戦していただけたらいいと思えます。後ろを見ていただきますと全課程受けますと26,000円必要となります。県は28,000円です。別途このテキストは、ない人が一応1,800円で買っていただくということで進めていきたいと思えます。</p> <p>以上で説明させていただきましたが、もし質問があればまたおっしゃっていただければと思えます。</p> <p>ありがとうございました。とっても良いお話ですけど、時間とね、やっぱり関連しますので、また皆さん個人で考えて下さい。何か他に質問はありませんか。</p> <p>今、あま市で7人の指導者がいらっしゃるということで、この指導者っていうのはこの養成講座を行う指導者なのか、レクリエーション・インストラクターの資格をいらっしゃるのか。</p> <p>7人は養成会の講師をやるスタッフです。インストラクターを持っているのは、もっとたくさんおります。</p>
井村委員長	
川原委員	
木全（克）副委員長	

川原委員	何人ぐらいいらっしゃるんですか。
木全（克）副委員長	24、5人はいると思います。
川原委員	おいくつぐらいなんですか。
木全（克）副委員長	大変若くて学校の先生42、3才ぐらいです。
川原委員	ありがとうございました。
井村委員長	ありがとうございました。他に何か。お聞きしたいことありましたら。
事務局	<p>補足ですが、このインストラクターについて木全（克）副委員長からお話がありました。事務局としましても1回目の研究会から話をさせていただいておりますが、核となるスタッフの方につきましては、できれば研修も受けていただいて、先ほど木全（克）副委員長が言われましたように急遽講師の方が都合悪くなり来られない場合や、そういったことがあった場合に研修を受けていると対応方法、どの様なことがこの場所でできるということも可能ではないかと考えております。ただ、すべての方にこの研修を受けていただけるかと言ったら、それはまた別の話になってくるかと思えます。あくまでも、地域の方、保護者の方、2回目3回目に出ておりますが、スタッフの方につきましては保護者の方の協力が必要であると研究会の意見をいただいております。そういったお忙しい保護者の方にお金を出していただいて、研修を受けていただく訳にはいきません。あくまで核のスタッフとなる方につきましては、こういった研修を受けていただけたらと考えております。子ども教室に必要な研修費などは可能な限り予算を組んで対応していけるよう考えておりますので宜しくお願いいたします。</p>
井村委員長	まず、スタッフのメンバーが決まらないと、その中の誰が取りに行けるかってことですね。

事務局	<p>ただ研修を受けていないといけない訳ではありません。話の中で、お時間、先ほど話ありましたように、すごいコマ数、日曜日、後で補習をしていただけるということもありますが、研修のお話しをしていけたらなというようには考えております。</p>
川原委員	<p>現場の核となる中心的なスタッフの方には、既存のものではなくて、こういったものを利用して学んでいただいて、それを活かしてもらおう。</p>
事務局	<p>当然既存も見えていただいて、その中でこういった研修を受講していただければと考えております。</p>
川原委員	<p>それ以外の現場のスタッフには、また別のプログラムは。それもこういうものの何かを利用していくのか、ここで、その独自のプログラムみたいなものを構築していくのか。どんなふうにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>10月開始の予定でありますので、現在、実施している、美和、甚目寺地区も見えていただきながら、事前に1か月、2か月調整をさせていただきまして美和の状況、甚目寺の状況を確認してもらい、その場を体験していただいてから10月に入っていたきたいというふうに考えております。</p>
林委員	<p>第1回から第9回まで朝から1日時間かかるわけですね。基本的に今おっしゃったようにスタッフの人に受けてもらうのが一番良いとは思いますが。費用は市が負担するにしても時間等セーブされますよね。</p> <p>もう少し簡単に研修をやってもらって、そのスタッフの方に。余裕があれば、こういう所に入ってもらうには大事かもしれないませんが、最初からこれは無理なような感じがします。</p>
事務局	<p>これは研修としての一例ではありますが、木全（克）副委員長、年度を分けてコマを分けることも可能なんですか。</p>
木全（克）副委員長	<p>一宮市は5年かけて取れるようにやっています。5年も持たないので今、7年8年かけても取れない人もお見えになり</p>

宮崎委員	<p>ます。</p> <p>理念がすごく沿っているところが他の企業でありまして。そういう所にこちらに出向いていただいて、核になる人の為に講習をしていただく。それを数回やってもらって理念をちょっと分かってもらうっていうスタイルから入るのも良いと考えます。</p>
木全（克）副委員長	<p>今、案内していますのは事務局も言ったように一例です。これもひとつありますよということです。</p> <p>ここに書いてありますように毎年社会福祉協議会と教育委員会の公認をもらって高齢者のサロンの方にも来ていただいており、福祉施設の方にも来ていただいております。一応登録していただいたスタッフの場合だと月に1回打ち合わせの会を実施しています。そこでちょっとこういうアクティビティなんかやるというかたちで練習する。あとは年2回全体会というのがありますので、そこでいろんなテーマを仕切りながらコーディネーションのトレーニングを勉強しております。</p>
林委員	<p>段階を置いてですね。</p>
木全（克）副委員長	<p>そうです。今の研修の話は置いといていただいて。これは例えば学生たちが学校で取れなかったものをということに来て、早く取らなきゃ駄目だという人。現場へ行ったら必要だったからちょっと取りたいという人。仕事が変わってということでも福祉の人もみえます。うちの場合、これを取ってくださいということはありません。あくまでも参考にしていただいてということ。資格は関係なしにこのコマとこのコマだけが勉強したいということになれば、さっき言いました後ろに書いてありますけど1.5時間あたり1,000円でコマ取りということもできるということですので、色んな方法が考えられます。これはひとつのヒントで、あま市がやるぞということだけです。そんなところで、あまりこれに縛られることはございませんのでお願いします。</p>
川原委員	<p>コマ取りが出来るのがすごくいいなと思ひまして、せっか</p>

<p>木全（克）副委員長</p>	<p>くこういう素晴らしいものがあるので、この中のいくつかをピックアップしてそれを必須科目として受講していただく。</p> <p>それを例えばコーディネーターの方は、これを受けて。現場のスタッフの方もこれとこれは取って下さいという形で。こちらで特殊なプログラムを作らなくてもいいし。それこそ興味を持った方でもね、取っていただいてもいいと思いますけど。その中のいくつかを必須科目にする。</p> <p>例えば子どもに接したことがないという初めての人が意欲だけで来ると、どういう位置で子どもに対して立ったらいいのか。どういう隊形をしたらいいのか。外だと太陽を背にするとか言って、細かい事があつたらそういうのをピックアップして、例えば、今これ50時間ですが20時間ぐらいで最低やれるとか、それも半日ずつ5回ぐらいにするとかってね。そういうことはできますので。これから実際現実にやるということになれば、そういうかたちもできるということで、この50時間で資格に縛られるということではなくて、そういうコマ取りもできるということはお話させていただきます。</p>
<p>辻委員</p>	<p>私もコマ取りの件、すごく賛成です。やっぱり関わっていただく方は、どんな関わり方でも研修は受けていただくべきだと思ふし、子どもを預かるってそれくらい重要なことだと考えています。ぜひ、これとこれは必修ですというかたちで受けていただける仕組みを整えてほしいと思います。私、ここに来る前から実は木全（克）さんからレクの研修の件聞いていました。個人的に受講したいと思っています。もちろん時間数が長いことも知っていたし、費用がかかることも知っていました。今後の自分の生活考えたときに、すごく生きてくるかな、今スポーツクラブで働いているし、色んな面で生きてくるなというふうに思っています。そういうお母さん達とか地域の人絶対いると思うので、長い時間だから、無理だろうって一旦諦めてしまうのではなくて。こういう目的で核になる人を育てたいってということで募集をしたら一人二人絶対出てくるのではと思います。その核の人たちがしっかりと受講していただければ、コマ取りを受講した人にも、人と人同士で教え合う組織が育っていくと思います。せっか</p>

	<p>くなので、この場だけの宣伝ではなくて外で募集する時にも、こういったことができますと。市から補助をしていただけなのであれば、その点も明記していただいて、どの程度補助してもらえるのか、どこからは自分の負担なのか、知っていただいて募集してもらおうと必ず手伝ってくださる方はいると思っています。</p>
井村委員長	<p>私たちもこれを見て初めて知ったっていうことですから。本当にほとんど知らない方が多いですね。</p>
宮崎委員	<p>あま市のこの体制として指導するっていうやり方は、ちょっとしたくないなっていう感覚がすごくあります。子どもを主体的に見て、その子どもたちを伸ばすっていうことを目的に放課後子ども教室はあり方として置いておきたいと思うので、どうでしょうか。そういう指導というか、子どもを見守るっていうレベルのもので考えていただけると。その中でインストラクター資格、預かる面で必要なコマを取るっていう考えはいかがでしょうか。</p> <p>何もかも用意してしまうと、結局子どもは何もできない。用意してもらったものをやり続ける子どもにはしたくないと思います。自分達で主体的にやるという行動をとれる子どもが欲しいですね。</p>
木全（克）副委員長	<p>宮崎さん言われるとおり、そういうことを優先的にやっていくとなると、やっぱりスタッフの力量がすごく必要だと思います。安全管理を優先すれば、すごく簡単にできます。やっぱりスタッフの力量がすごく問題になってきます。その辺をじっくりじっくり皆さんで練って。今言われたように、この中の20時間でピックアップして、この子ども教室の人たちは最低これを1年で、あるいは2年で学んで下さいというような形のものにしていくことは、色んな方法をこれから皆さん考えていただいて、先ほど言われたように、やっぱり伝えれば一人、二人、やってみようっていう方がいらっしゃるかもわかりませんので働きかけは必要だと思います。</p>
立松委員	<p>私たち過去にやってきた中で、確かに見守るっていうのが簡単なようで、すごく難しいです。子どもが自然に仲良く</p>

とか交流するっていうのは喧嘩もおきればトラブルもあります。飽きてくる子たちもいて。そんな中で本当のプログラム、マジックやってもら。40分とか50分で終わって残りの時間、もうダラダラ寝転がっている子もいれば、そういう子どもたちに少し交流するきっかけを作ってあげるとか、スキルってやっぱりこういう所で学ばないと。私は一応保育士をやっていたのでそういうちょっとした声掛けなんかは、多少分かってやってきたつもりです。全く本当に分からないとやはりちょっとしたきっかけ作りのヒントであったりとか。あと、飽きてきたなっていう頃に何かゲーム、楽しいゲームの仕掛けとか、引き出しみたいなものが少しあると、どこかで役に立つっていうことはすごく思うので。こういうせっかくプロの方の機会を学びつつ、今、宮崎さんが言ったように子どもが自発的に動けるとか、そういう見守りができる理念をスタッフ間で共有していけたら良いと考えます。その解決力を子どもたちが自分で考えてできるような、そこに大人がどう関わるかだと思います。

全く大人が関わらずにほったらかしっていうのが見守りじゃないと思うので。

何かやっぱり教えることも必要だし、自然に学ぶことも必要だと思うので、理想なことばかり言っても失敗もあるかもしれません。その現場のスタッフの皆さんが、その場で反省しながら次に活かすというか、そういう人間関係も当然必要でしょうし、チームワーク、そういったことも含めて研修の組み立て、このコマだけじゃなくて、その放課後子ども教室をどうしていくかっていうそのコマも必要かもしれない。そういうスタッフだけの集まり、講座みたいに必要かもしれない。私たちの時はそういう専門のこういう場がなかったので、色々調べてきて、レクリエーションゲーム等探して「ケードロ」とか「ケンケンパー」とか。あとは道具を持ってきてね、自分たちも「竹馬」をやってみて、危ないよねって言いながら自分たちで学びあって。そんな感じでそういう場を作っていただけるのはすごくいいことだなと思います。

宮崎委員

失敗したからといってすごい「うわあっ」と言われる世の中じゃなく、失敗してもいいじゃない、次頑張ろうよって言

井村委員長	<p>える雰囲気づくりが大切だと思います。</p> <p>最初から皆さんできません。絶対できません。そんなの失敗はします。それで反省して本当に基礎それからです。もう完璧にできないし、しない方がいい、逆に。子どもたちの力って結構ありますから、あの子たちの行動、行動力ってあるので。ある程度はもう任せといてもいいこともあるかもしれないです。今日のやる事がこれと言っという、後それがダラダラになるうが、そのこのところはそういう時間の放課後の子どもたちの楽しみじゃないかなって思いますけど。</p>
林委員	<p>今言われた見守りのための、その最低限必要なことをせっかくあるから、この中で一つでも二つでも受講して、できればスタッフの方には。</p>
井村委員長	<p>スタッフは子どものサポート役で。</p>
林委員	<p>基本は受けてもらって。あとは自分の自己啓発でやってもらえればいいと思います。</p>
立松委員	<p>でもね、木全（克）先生のようにやっぱり引き出しがたくさんあるとハッとこう子どもが集中するっていうのはあると思います。</p>
木全（克）副委員長	<p>放課後子ども教室っていうのは学校終わってから来ますので、もうやりたいことがやれるって暴れる子と。4月になって1年生っていうのはもう学校の授業だけで精一杯ですよ。来てフラフラです。それだけ学年の差でもう意識の差があるので、ほっといたら何をするか分からないっていう状況です。ましてや体育館だったら解放されて飛び回って走り回る。そして今だと子どもたち、色んな子どもたちがいるので、やっぱりスタッフが1対1で見守らないと駄目な子もいる。そして全体を見るとやっぱり20人いて5～6人のスタッフがいなかったら安全の確保ができないですよ。だからその辺のところを考えてやっていくと本当に今のスタッフなんかね、終わると倒れそうで家に帰れない人がいますので。やっぱり若い人たちも含めてそういうところで支援がで</p>

事務局	<p>できればと思っています。</p> <p>今、コマの話がでましたので、また木全（克）委員とも話をさせていただきまして、必須項目、例えば先ほど言ったAEDだとか、子どもの安全、体の安全に関しては、きちんとこういった講習を受けないと分からないという部分がございますので、そういった必須項目をピックアップいたしまして進めていこうと思います。</p>
辻委員	<p>できたらなんですけど、学校、AEDのことをやるのであれば、実際にやる教室とか学校でやっぱり事が起きた想定でぜひやっていただきたいなとすごく思います。勉強していても、いざ行ってどこにAEDがあるか分からない、電話かけようと思ったら電話がどこにあるか分からない、先生の居場所も分からないでは意味がないと思うので。そういうことをもしやっていたらいいのであれば、学校さんにもお願いをしていただいて、その場でやっていただけるとすごくありがたいなと思います。</p>
川原委員	<p>費用ですが、先ほど初年度の費用が240万程というお話でした。それには整備は入るのか、初期費用ですね、どれぐらいの割合で。</p>
事務局	<p>運営費として約80万円ぐらいの予算と考えております。</p>
川原委員	<p>あくまで運営にかかる。</p>
事務局	<p>2校であれば、160万程ではないかなというように今は積算しております。</p>
大西委員	<p>プログラムっていうのは、これは決まりですか。</p>
事務局	<p>今の調整のついでにしている段階でのものです。今コーディネーターであります大西委員の方から地元の方にお声をかけていただいております。そういった方たちにお願いができるようであれば調整させていただきたいと思っております。先ほど言いましたように、プログラムが30分で終わるプログラ</p>

	<p>ムもあれば、1時間で終わってしまうプログラムもあります。時間は5時までという時間がありますので、時間内であれば2つのことをやっていけてもいいのかなというようには考えております。</p>
<p>宮崎委員</p>	<p>この中で一つお願いしたいプログラムがあります。時間が空いたときに子どもたちが対話をして欲しいなと思っています。やったプログラムについて、子どもたち同士で対話をさせて、落とし込んでほしい。せっかく来ていただいて、教えてもらってるのに、はい、体験しました、そこで終わりではなく、ちゃんと落とし込んだ方が、より楽しめると思います。子どもたちも発言できる場、内気な子ども、そういう時には発言できるような場所になっていくと、お互いを認めあう感じで。</p>
<p>木全（孝）委員</p>	<p>学びに向かう力とよく言われます。どんなことを自分は発見したとか、どんなことを自分は学んだということをプレゼンするというか、言葉にする、そういう場はいわゆる学校現場でこれからもっとやっていかないといけないということは言っておりますが。感想が良かったじゃなくて。こういうことをやるともっと良くなるねとか、そういう話し合いができるといい。コーディネートできることも必要かなという気がします。</p>
<p>木全（克）副委員長</p>	<p>美和の場合は、振り返りでね、そういう形のものをしていきますけど。やっぱり言う子、発言する子が決まってしまう、グループ分けしてグループの中の意見とかいう話、色んな形を取っていますけど、ただプログラムによってね、激しく動いた場合はそんなことできないですし、ただ、今、校長先生も言われましたが、放課後子ども教室はいわゆる子どもたちの24時間の中で、位置づけされているのか。例えば新聞紙で作った作品は持って帰りますけど、だいたい聞くと1割か2割の方は作品を残していると聞いています。その辺のところをどういうことでこの子どもたちが時間を過ごしているか、やっぱり親の認識をもっと高めるためのものもやらないと、ほんとにスタッフが倒れるくらいやって、物を持ってもらっています。</p>

<p>宮崎委員</p>	<p>迎えに来るお母さんに、そのレクリエーションの先生たちが、今日はこういうものを作りましたとか、親たちにはこういう声掛けをしてくださいねとか、母親に対してもやっぱり言葉があると、そうなんだ、これが当たり前ではなかったのか。例えばテスト一つ取ったって、何点取ってきたって聞くのではなく、そのプロセスを大事にしたいなって私は思います。</p>
<p>木全（克）副委員長</p>	<p>中には、迎えに来る親は、もう早く帰りたい、そして後は残ってしゃべりたいっていうお母さんもおみえになります。そこら辺のところをこれからどういうかたちで位置づけていくのか。事務局と話しておりますが、こういうことをやりました、家庭ではどうですか、今までと違う形でやっていかなければならないと思います。</p>
<p>村上委員</p>	<p>すいません、色々とお話を聞いておまして、私、別の団体ですけれども、運転者友の会というのがあります。そちらの方で保育園児の方へ交通安全、交通に対しての色々なマナーとか覚えていただくことを紙芝居とか、体操をやったりと色々な音当てクイズなんかをやりまして保育園児に聞いています。園児の人たちにどんな反響があるかっていうので、みなさんメンバーもベテランさんばかり、何年もやってるとベテランになってきましてね。今の音はこの音じゃないでしょうとか言いながら、声掛けしながら楽しく交流しています。幼稚園の先生も保育園の先生方もこういうのを毎年楽しみにしてくださってるので、お母さんにも伝えてねと私たちも言いますので、そこは会もあってもいいのかな、やっぱり声掛けというのはね、今日放課後でやったことを家庭へ持っていき、その反応を聞くというのも一ついいのかもしれないですね。だから毎年楽しみにしてくださってる子どもさんたちもいらっしゃいますので、それが学校に上がれば、また一つずつ段階を踏んで進んでいけるのかなと思っています。</p>
<p>木全（克）副委員長</p>	<p>実は一昨年ですけど、高齢福祉課と協力して、低学年を含めて認知症の勉強をしたんですよ。小学校2年生の課題図書で、「ばあばは、だいじょうぶ」っていう本が夏休みに出た</p>

	<p>んですけど。うちのおばあちゃんがっていうことで。その時に高齢福祉課から認知症のテキストやら資料を貰って親に渡して、いかがでしたかって言ったら、ほとんどが読みませんでしたと。一人だけは、うちのおばあちゃんと何か今まであまり接しなかったんだけど大事にするという声が聞けたもんですから、そういったかたちで色んなところと協力しながら、広げていくというところ。あま市も認知症すごくサポートしていますので。我がこととして近所のおじいちゃん、おばあちゃんを見守るようなかたちでね、だからどんどん今村上さんが教えてくださったようにそういう情報を教えていただいて、ほんとにどんどん入れるものを入れて、新しいものにしていけたらなと思いますので、よろしく願います。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。もうどうでしょうか。あと他にはよろしかったですか。</p>
村上委員	<p>今七宝の方でプログラムが色々書いてありますよね。これはやっぱり講師の方、スタッフの方が一人でしゃべってそれを子どもさんたちが見てる。それと子どもさんと一緒になって、工作とかドッジボールなんかをやるっていう。取りまとめであるのですごくいいなと思います。その時に会話がありますもんね。無言でやっているというわけではないのです。こういう流れ的には大人の何かお遊びかなっていうふうに一瞬思います、最初見たときには。だけどやっぱり子どもさんと一緒にやっぱり交わってやっていけるのは、多いなというのは感じました。ずっと眺めてましたら、いいと思いますのでね。やっぱり子どもさんと一緒にスタッフが行動できるプログラムを作っていたらね。でもこれは美和とか甚目寺もこのようなかたちでやるわけじゃなく、ただ七宝だけですよね、とりあえずは。</p>
宮崎委員	<p>毎日実施していけるようにしないといけない。先ほどの木全（克）先生の話もそうなんですけど。七宝町はお年寄りの方が多いです。うちの班もほとんどがお年寄り。11軒ありますが、4軒しか稼働してなくて、すぐ班長が回ってくるぐらいのお年寄りが多い地域です。やっぱりそういう一人暮らし</p>

井村委員長	<p>しの方もいっぱいみえるし、学校に来てもらうとか、例えば遊びにでもいいんですが、放課後の時間にそういう人たちも来て一緒に遊んでもらうっていう日があってもおもしろいと思います。とにかく家から出て欲しい。</p> <p>色んなところで参加されてるお年寄りの方もたくさんみえますし。</p>
宮崎委員	<p>せっかくだからそこで一緒に遊んでいただきたい。</p>
井村委員長	<p>全然顔を知らないわけじゃなくて。そういう色んな高齢の先輩の方たちに色んな話をしてもらうのは、子どもたち興味はあると思います。</p>
木全（克）副委員長	<p>最初からたくさん出ましたけども、やれる事は。ただ今出てきたのは枠組みを変えたりコラボするというのが進んでいます。他では放課後子ども教室に、その時間に地域のお年寄りのサロンをやってもらって、そこで交流しています。あるいは、社会見学とか何かで学校で総合学習がありますので、その時間にサロンへ出かけてくってという形で、とにかく今までの枠を変えていく、それから縦割りの行政から、これサロンの話になってくるとまたちょっと違う社会福祉協議会とかコミュニティ推進協議会だとか出てくるものですから、そういう枠取りながらやっぱりいずれはやっていくんですけど、いきなり始めるところからすべてはできないので、ちょっとずつ出来るところから始めていけるようにしていけると良いと思います。</p>
立松委員	<p>現実、サロンさんの方からセンターの方にも子どもたちと交流をしたいという要望が出ています。今年度もそういう意見が出ましたが、今年度は実現しなかったんです。方法はあるので、1歩ずつですよね。</p>
木全（克）副委員長	<p>そうです。1歩ずつっていうか半歩ずつです。</p>
川原委員	<p>今ね、皆様のご意見伺っていて、理想とするところで色々やっていただくとか、でも半歩ずつっていうところ</p>

	<p>で。短期の計画と長期的な目標とかビジョンみたいなものを皆さんで同じものを共有できるように目に見えるかたちでちょっとまとめていただけると。ここの理想に対して今はこの時期ですよ。そういうご意見があれば、ここの部分は長期じゃなくてもすぐできるかもしれない。これは難しいからもうちょっと先にといいか、そういう見通しがね、立てられるような、こうあるといいかなと。</p>
<p>辻委員</p>	<p>保護者の方を巻き込みたいというのが、七宝のモデルの1番のところで始まっていると思います。どういう心構えとかは大分固まってきたので、そろそろ本当にどうやって巻き込むかっていう話し合いをしていかないと。前の会議の時に入学式で話したらどうかという話も出てたかと思いますが、もう10月から始まるので9月にはスタッフの研修をしようと思うと、スタッフの募集もいつぐらいからとかっていう大事な中身の部分が整ってきたから、そういう行動の部分もしていかないといけないと思います。</p>
<p>井村委員長</p>	<p>事務局の方からそのところは。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、先回の3回目の時に、入学式というお言葉がありました。3月の校長会の時にお話をさせていただいております。ただ、入学式ということになりますと1年生の保護者とお子様がおみえになるということもございましたので、伊福小学校と秋竹小学校の校長先生にお話をしましてPTA総会が4月に実施されます。授業参観後になります、その場のお時間をいただいて、子ども教室を実施いたしますというお話をさせていただく。先ほど周知ということもございましたので、宮崎委員のご協力もいただきまして七宝の方でチラシを作成していただける可能性があるということで今日、打ち合わせを宮崎委員も入っていただいて、そのチラシ作成の打ち合わせをさせていただきます。目に留まるようなチラシを何とか作って周知していけたらなというふうには考えております。ただ入学式は実施せずPTA総会で話をさせていただくというかたちにはなりますが、あくまで対面ということを何度も研究会で言われておりますので、そういった回数を増やして行ってですね、何かある度に小学校へ伺い説明して</p>

	<p>いきたいというふうに考えておりますのでお願いいたします。</p>
井村委員長	<p>はい、ありがとうございました。たくさんでました。いっぱい宿題もでました。あとは宜しいでしょうか。</p>
宮崎委員	<p>さっき川原さんが最終的な目標ビジョン、ゴールを、うやむやになっちゃったので。どうしていかってことですよ。放課後の皆さんで話し合いはどうでしょう。</p>
事務局	<p>先ほどの長期計画を立ててまいります。</p>
宮崎委員	<p>最終的にあま市の放課後はどうあるのかっていうゴールを作っておくということですね。</p>
事務局	<p>まずは、この10月からの10回というものと、スタッフの問題。そこをまずは重点的に進めていくこと。長期計画の方を立てていくようなかたちで、理想形、理念、理想ではいけない現実とすべき事ではありますので、また皆さんのご意見をお聞かせいただきながら進めていけるようにしたいと考えております。</p>
井村委員長	<p>はい、それではこの議事はここでまず終了ということで。その他に入ります。何かありますか、事務局の方は。</p>
事務局	<p>はい。またこれから先ほど何度も言ってますが第5回、第6回と続いていく会でございますので、また引き続き31年度も宜しくお願いいたします。</p>
井村委員長	<p>それでは以上で本日のあま市放課後子ども教室のあり方研究会を閉会いたします。</p>